

第4回古沢小学校のあり方協議会 議事概要

開催日：令和6年10月23日（水）

開催時間：19時00分～20時00分

開催場所：古沢地区センター

出席者：会長、斎藤副会長、五十里委員、高林（聰）委員、

荒木（祐）委員、杉田委員、石田委員、今井委員

事務局：教育委員会事務局次長 高橋 洋

学校再編推進課長 山崎 悟

学校再編推進課長代理 高岡 太郎

学校再編推進課計画係主査 春田 圭介

学校再編推進課計画係主事 大関 光貴

《開会》

【司会】 第4回古沢小学校のあり方協議会を開催する。

本日、都合により委員6名が欠席している。

会長に議事の進行をお願いする。

（会長 挨拶）

《古沢小学校の再編に関するアンケートについて》

【会長】 7月に本協議会で実施したアンケートの結果について、前回の協議会は池多小学校のあり方協議会との合同開催だったことから、資料の配布のみとした。改めて事務局より説明を求める。また、古沢小学校のPTAにおいてもアンケートを実施したとのことで、斎藤副会長から報告をお願いする。

【学校再編推進課長】 （資料12古沢小学校の再編に関するアンケート集計結果について説明）

【斎藤副会長】 資料13をご覧いただきたい。9月にPTAの保護者を対象にアンケートを実施した。内容は、「統合してもよい（池多小

学校と老田小学校との統合)」「統合したくない」というアンケートである。「統合してもよい」と答えた方が33名、「統合したくない」という方が4名であった。回答率80%以上の回答であった。このアンケート結果がまさに今現場の小学校の保護者の声であり、7割、8割以上の方が統合してもよいという意見を述べられている。

「統合してもよい」と回答した理由としては、主に「児童数が少なく複式学級を解消してほしい」といった内容であった。また、「統合したくない」と回答した方は通学路の確保や登下校が心配という理由であった。

【会長】 これで住民の方々の大まかな意向は見えてきた。そこで、委員の皆さんに、このアンケートの結果も踏まえて、古沢小学校の再編についての考え方をお聞きしたい。

【斎藤副会長】 私の子どもは、今小学生、一番下には未就学児の子がいる。古沢小学校は児童数が減少しており、複式学級となっているが、複式というのは、数が少ない中で競争意識がなくなるとか、だんだん成績が下がるという話を聞く。また、以前に民生委員の方から、自分の一番下の子どもは同級生が誰もいないかもしれないといった話を聞いた。現在はどうか分からぬが、自分の子どもが、同級生が誰もいない状況で小学校に入学するというのは想像がつかない。やはり小学校は友達がいる状態であって欲しいというのが正直な思い。アンケート結果からも、もう統合の話を進めて、方向性を出していかないといけない。

【会長】 お子さんに対して、統合の話はしているか。

【斎藤副会長】 子どもたちに統合の話はしていない。ただ、聞いていると、友達は多いほうがいいという話は出ている。

【委員】 委員としては、アンケートの結果が統合すべきということなのでこのまま遂行していくということだと思う。

【会長】 自身はどう思われるか。

【委員】 自分の子どもは正直、統合したくないと言っていた。と言い

ながらも、いずれ衰退していくということが目に見えているからやむを得ないという部分もある。ただ、委員としては、このアンケートの結果に基づいて推進していけばいいと思う。

【委員】

私も子どもたちと統合の話をしたことはあるが、子どもたちはやっぱりしたくないと言っていた。できれば現状のままでもいいと思うものの、子どもたちのトータルで見た能力面の向上を考えると、やはり友達が多いほうが競える相手も増えると思う。また、友達同士の付き合いというか、社交性というのも身につくと思う。親からしてみれば、友達が多いにこしたことはないが、いじめなどの面は不安だ。ただ、先のことを考えると統合したほうがいいと思う。

【会長】

子どもを持っている当事者である皆さんからすれば、そういう不安な面は出てくると思う。

【委員】

まだ、子どもは保育所なので、小学校の複式学級の授業の様子はよく分からぬが、一番最初に統合の話を聞いたときは、せっかく小学校の近くに住んだのに登下校はどうなるのかと考えていた。前回の講演会で、統合を決断した浜黒崎地区の方の話を聞いて統合したくない側の気持ちも分かりつつ、長い目で見れば、統合したらこんなふうになっていくというのが見えてきた。ただ、統合したくない意見の側の通学面だったり、マイナスとなるところをじっくり話を煮詰めていく必要がある。

【委員】

私も統合したほうがいいと考えている。周りのお孫さんやお子さんがおられる方に聞いても、やはり統合するなら早くしたほうがいいという話を聞いている。ただ、この古沢小学校がなくなるというのは寂しい気持ち。この前の学習発表会を見てもすごくみんな生き生きと頑張っていたので、なおさらその意見が強くなった。できたら残ればいいという思いもあるが、統合は致し方ない。

【委員】

私には保育所に通う孫、将来通う子が2人いるが、今、県外

にいて当面戻る気配もない。部外者だから関係ないと言つたらそれまでだが、ここまで来たらもう一刻も早く、池多、古沢、老田で統合するのが一番いい。いろんな意見も当然あると思うが、躊躇していたらより大きな問題が起きかねない。冷酷な言い方かもしれないが、一刻も早く統合すべき。

【委員】 私は、致し方ないという思い。それ以外に言い方がない。

【会長】 委員の皆さんのが、いろいろ悩みながら 1 つの判断をされたかと思う。私たちも、簡単に統合してそれでいいという単純な話ではない。学校の問題もあり、地域の問題もある。どうすべきかと悩みながらも、子どものことを中心に考えると統合を早く進めたほうがいい。皆さんのが様々な思いを持っておられるかと思うが、協議会としては統合するということで進めたい。

それでは、今後の協議会の進め方について、事務局より説明を求める。

《今後のあり方協議会の進め方について》

【学校再編推進課長】 (資料 1 4 古沢小学校のあり方協議会の進め方 (案) について説明)

【会長】 第 6 回以降の開催時期はいつ頃の予定か。

【学校再編推進課長】 案としては第 6 回を 1 月の上旬頃、地区説明会を 1 月中旬頃、最終の第 7 回を 2 月上旬頃に開催してはどうかと考えている。

《老田小学校見学会について》

【学校再編推進課長】 (資料 1 5 学校見学会実施概要について説明)

【委員】 参加予定人数はどの程度か。

【学校再編推進課長】 現時点では、古沢小学校あり方協議会からは 7 名、池多小学校のあり方協議会からは 7 名が出席の回答をいただいている。

『閉会』

- 【会長】 本日の議題はこれで以上となる。様々な心配があるというの
が現実かと思うが、子どものために進んでいくしかないと考
えている。
- 最後に事務局から連絡事項はあるか。
- 【司会】 老田小学校見学会については、出席と回答された委員に11
月の初め頃に、詳細についてご案内する。
- また、次回以降の協議会については、日程を調整の上、改め
て案内させていただく。
- 【会長】 これで、第4回古沢小学校のあり方協議会を終了する。

―― 了 ――